

様式第 2 号（第 8 条関係）

審議会等会議録

会議の名称	令和 6 年度 第 1 回 加須市総合教育会議
開催日時	令和 6 年 8 月 2 6 日（月） 午後 3 時 0 0 分から午後 4 時 4 0 分まで
開催場所	加須市役所本庁舎 3 階庁議室
議長氏名	角田 守良市長
出席委員	角田 守良市長、小野田 誠教育長 遠藤 康江教育長職務代理人、猪股 富美子教育委員 秋山 哲也教育委員、松永 修教育委員 片山 上総教育委員（7 名）
欠席委員	－
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 （1）加須市立小中学校のあり方 （2）増え続ける外国人児童・生徒の支援について 4 その他 5 閉会
会議資料の名称	<事前配布資料> ・次第 ・総合教育会議名簿 ・資料 1 「加須市立小中学校のあり方」広報かぞ 1 0 月号掲載原稿(案) ・資料 2 増え続ける外国人児童・生徒の支援について <当日配布資料> ・「加須市立小中学校の適正規模と適正配置に係る基本方針」策定 のための基本的な考え方（案） ・第一保育所・第四保育所の緊急対応について
会議の公開又は 非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴者の数	なし
説明者の職・氏名	生涯学習部長 齊藤 千恵美、教育総務課長 高貫 貢 学校教育課長 高橋 一也、こども保育課長 関口 久美子

事務局職員職・氏名	副市長 萩原 利一、総合政策部長 石井 幸子 こども局長 野本 朋子、生涯学習部長 齊藤 千恵美 学校教育部長 中島 高広、政策調整課長 矢部 良貴 こども保育課長 関口久美子、教育総務課長 高貫 貢 学校教育課長 高橋 一也
会議録の作成方法	☒ 要点記録 ☐ 全文記録
その他必要な事項	

様式第 3 号（第 8 条関係）

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
事務局（矢部政策調整課長）	1 開会
角田市長	2 あいさつ
事務局（矢部政策調整課長）	この総合教育会議は法律により原則公開とされておりますが、傍聴を希望される方はおりません。 本日の会議録の署名委員について、名簿順で秋山委員にお願いしたいと存じます
各委員	了承。
事務局（矢部政策調整課長）	議事の進行については、加須市総合教育会議運営要綱第 4 条の規定により、会議の議事は市長が進行すると定められておりますので、角田市長に議事の進行をお願いしたいと思います。
角田市長	3 議題（１）加須市立小中学校のあり方 それでは議題（１）について説明をお願いします。
斉藤生涯学習部長	先月 7 月 1 日に市長から、加須市立小中学校の適正規模・適正配置の検討についての検討依頼を教育長が受けておりまして、教育委員会において協議を始めることといたしました。 教育委員会では、7 月 12 日に臨時会を、7 月 22 日に定例会を開催し、今後の検討を進めるための、「「加須市立小中学校の適正規模と適正配置に係る基本方針」策定のための基本的な考え方」の案を取りまとめました。 本日、この総合教育会議の場をお借りしまして、基本的な考え方（案）を教育長職務代理者の遠藤委員から、市長に手渡しをさせていただきます。
遠藤教育長職務代理者	よろしく願いいたします。
角田市長	ありがとうございます。 それでは、説明をお願いします。
高貫教育総務課長	（議題（１）について説明）
角田市長	私から教育長へ、市立小中学校の少子化等の状況を踏まえて、適正規模・適正配置についての検討を依頼しました。 それを受けて、教育委員会で基本的な考え方をまとめていただいたのが、「「加須市立小中学校の適正規模と適正配置に係る基本方針」策定のための基本的な考え方」（案）ですね。
高貫教育総務課長	広報紙では、「「加須市立小中学校の適正規模と適正配置に係る基本方針」策定のための基本的な考え方」については要約し、全文は、2 次元コードから見ていただくことを考えております。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
角田市長	今後の流れは、基本方針の策定、基本計画の策定、個別計画の策定を入れる予定です。 「加須市立小中学校の適正規模と適正配置に関わる基本方針」策定のための基本的な考え方」はまだ案であり、策定はしてないのですか。
斉藤生涯学習部長	はい。本日の総合教育会議で市長と教育委員との間での意見交換を踏まえて、教育委員会で決定をしていきます。
角田市長	最初に「加須市立小中学校の適正規模と適正配置に係る基本方針」策定のための基本的な考え方」（案）を協議し、その後、広報紙の協議を進めた方が良さそうですね。 教育委員さんで補足説明がある方は、お願いいたします。
猪股委員	この基本的な考え方については、教育委員会の中で議論をしてきたことなので、補足することはありません。 ただ、広報紙では、基本的な考え方（案）は省略せずに掲載した方がいいと思います。
角田市長	私も要約せずに載せた方がいいと思います。
遠藤教育長職務代理者	広報紙に掲載する、今後のスケジュールの年度は空欄となるのですか。
斉藤生涯学習部長	概ねの年度目標はプロジェクトチームの中で検討中です。
角田市長	広報紙には年度は入りますか。
小野田教育長	基本計画や個別計画については、様々なパブリックコメントも含めてご意見をいただいて、それらの意見に基づいて、協議をして確定するため、まだ見通しがつかないと思います。 少なくとも基本方針の策定については、今年度中に行うということで、その部分だけ年度を入れることになると思います。
猪股委員	広報紙には、年度まで数字を入れないと、無責任だと思います。市の本気度が伝わりません。 また、地域の合意形成が大事だと言いつつも、地域の声がどこで生かされるのかが分かりません。教育委員会が勝手に決めている印象を与えてしまいます。 審議会を立ち上げるのであれば、それを明記するべきであり、住民説明会であるとか、市民がどこでコミットできるかを、目で見ても分からないと、市や教育委員会が勝手に進めている印象をもたれてしまいます。 令和３年度には、８割近くの自治体が適正規模の検討を始めていました。近隣では、羽生市や行田市は進んでいて、この件について

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
齊藤生涯学習部長	は、加須市は遅れています。なぜ加須市は適正規模の議論が遅くなったのか、加須ならではの事情、加須ならではの目指すところがあるからだと思います。このままでは、羽生市と行田市の様子を見て、後からスタートしたのではないかという印象を受けてしまうと思います。 また、文部科学省がしかるべき調査を経た後、人間関係の固定化を避け、共同的な学びを実現するために、クラス替えが必要であると明言している文部科学省の方向性があります。加須市が勝手に取り組んでいる適正規模の動きではなく、国全体で取り組んでいる動きだということを入れる必要があると思います。 猪股委員さんがおっしゃる通り、言葉が少なかったと思います。基本方針策定に向けて、案ができた段階でパブリックコメントを予定しています。 そして、基本計画の策定に向けて、案ができた段階で、保護者を含む地域住民への説明、審議会への諮問答申、パブリックコメントも検討しています。 また、加須市が目指すもの、加須市の地域性を踏まえた方針とするため、特に保護者や地域住民との十分な合意形成、これまでの本市の特色ある学校づくりを支えてきた地域密着型教育の成果や、変化する地域の実態を踏まえる必要があります。これが加須市の特徴であるため、加須市らしさ、加須市に一番適したあり方を目指していくということを、広報紙の中でも触れたいと思います。
角田市長	基本的な考え方（案）は、これ以上直す必要はないですね。 基本方針、基本計画、個別計画の3つのスケジュールを記載する予定ですが、計画を確定させていく過程には、審議会や意見交換会など地域の声を聞くチャンスがたくさんあります。それを省略してしまうと誤解を招いてしまうというご意見だったと思います。 また、これまで加須市で検討してこなかった経緯を、国の方向性を踏まえて説明する必要があると思います。 そうなれば、広報紙の特集ページで3ページから4ページは使うことになると思います。 今日の意見を踏まえ、広報紙の原稿を考えてください。
松永委員	広報紙は何万人もの市民の方が見ることになります。立場上、我々を含め、この協議に関わった人たちや関心を持った人たちは広報紙を見て分かると思いますが、全く知らない方もいるため、広報紙の掲載内容については慎重に考えなければならないと思います。 また、基本方針がどんなものになるかが分からないと、基本的な考え方は見えてこないと思います。 今後のスケジュールについても、こんなに簡単に進むのかと思われてしまわないように、市民からの意見をどこでどのように吸い上げていくかを見えるようにした方がいいと思います。 根本にあるのは、基本方針に活気に満ちた活動が展開できる学校規模、最適な教育環境とありますが、それを具体的に言うと、学校

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
片山委員	が持っている特質です。集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い協力し合い、切磋琢磨することで、一人一人の資質や能力を伸ばすというのが、学校の特質だと思います。このために、小中学校は一定の集団規模が確保されていることが望ましいというのが根本にあるため、そのあたりの文言を加えれば、納得してもらえenと思います。人数が減っているから再編を考えているのではなく、こどもたちにとってその方が良いと理解してもらうためにも丁寧に説明した方が良いと思います。 今回の話を進める前提として、できるだけ丁寧にということ意識して進めてきたと思いますが、この広報紙からは丁寧さが伝わりません。ここまでやってきた丁寧な取り組みを詳細に書くことが必要だと思います。 例えば、学校評議員さんとの話し合いも、かなり細かく丁寧にやってきたと思います。これからも丁寧にやっていくという意思を市民に分かっていただきたいと思いますし、教育委員会が勝手に決めている印象を持たれないよう掲載していただきたいと思います。
秋山委員	広報紙は多くの市民の手に渡るものです。去年の意見交換会は学校評議員さんなど一部の方の意見だということが気になります。
角田市長	現時点では、何ができていて、次のステップは何があるというのが分かるようにスケジュールも示すのが良いと思います。 また、文字数の関係はありますが、重要な要素を漏らさないこと、今後市民の皆さんのご協力をいただきたいというような、お願いの意図が伝わる丁寧な説明にすることが必要です。 他に内容についてご意見ありますか。
猪股委員	改めてご検討をお願いしますが、これだけ大事なテーマであるため、4ページは紙面を割いてもいいと思います。 なぜかという、教育委員会は何もやってこなかったのではなく、小規模校同士と一緒に活動したり、リンクミーティングを行ったり、地域を大切にしたり取り組みを地道に行っていて、部活も学校の枠を飛び越えて、こどもたちは頑張っています。 また、こどもたちが生き生きと活動している写真を載せて、共感を得られる紙面を作るべきだと思います。 紙面を4ページ割けるのであれば、丁寧なデータも出せるし、これまでの経緯についても、丁寧に説明できると思います。私は2ページだけだと、何を書いてもうまく伝わらないと思うので、ご検討いただければと思います。
遠藤教育長職務代理者	学校評議員会では各地域で何回も話し合いをしています。学校評議員の声をたくさん載せたり、会議の写真を載せるのはどうでしょうか。そうすればもう少し身近に感じていただけたと思います。 また、今後は毎月シリーズ化し、小中学校のことを載せていくという手もあると思うので、ご検討いただきたいと思います。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
角田市長	シリーズ化して、毎月か隔月で掲載することは検討可能ですか。
石井総合政策部長	検討は可能です。
角田市長	広報紙に4ページ掲載することは可能ですか。
石井総合政策部長	はい。指示をいたします。
角田市長	ここで出た意見を反映した広報紙にするとともに、10月号に掲載する方向で進めるということによいですかね。また、シリーズ化の件は検討させてください。 学校評議員の声の掲載の仕方もある必要がありますね。 この会議は、いつも活発なご意見、議論をいただいて大変ありがとうございました。それぞれ教育委員さんも、市長執行部も思い入れがあり、重要な課題であると思います。 確定したのは、策定のための基本的な考え方ですね。これはもう、決裁し、案を取っていいと思います。 他に、小中学校の適正規模・適正配置について何かございますか。
松永委員	言葉の整理をしておいて欲しいと思います。学校の再編・再整備をする小中学校の適正規模と適正配置の基本方針ですが、整備することが小中学校の適正規模と適正配置ではないと思います。 適正規模と適正配置は再編整備するための条件だと思うので、ここは整理して書かないと誤解を招くことがあるので、注意していただきたいです。 特に学校数のことを冒頭に持ってくると、学校数を決めることが目的なのかということになりかねないので、注意しなければいけないと思いますので、整理をお願いします。
角田市長	私の過去の議会答弁では、市長の見解を求められたこともあります。その時は、学校は誰のためにあるのか、それを基本に考えていきたいと答えました。 いろいろなご意見をいただいたので、次どうしたらいいか明確になってきたかと思います。 今のご意見を踏まえて熟度の増したものにして、お示しできればと思います。よろしくお願いいたします。
高橋学校教育課長	3 議題（2）増え続ける外国人児童・生徒の支援について 次に、議題（2）について説明をお願いします。 （議題（2）について動画視聴及び説明）
角田市長	1番の増加する外国籍児童・生徒の現状の中で、特別の教育課程の日本語指導対象者、これは特別な教育が必要な人だと思いましたが、令和6年度はこどもが58人と増えています。2番が特別指導

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
	をしなくてはいけない子どもたちのレベル別の内訳だと思います。 58 人の対象者がいて、日本語の習熟度別に分類していますが、全員が特別な日本語指導が必要ということですか。
高橋学校教育課長	はい。
角田市長	資料の 3 番、4 番では、今こういうことをやって、成果も上げていますという説明でした。 まず、この現状について、ご質問やご意見があれば、いかがですか。
猪股委員	資料の 1 番についての質問です。人数ですが、例えば未就学の子や所在確認ができない子、不登校の子たちもデータに入っているということでしょうか。
高橋学校教育課長	未就学は入っておりません。
猪股委員	外国人児童・生徒の場合は、未就学という最悪のケースもあると思います。教育委員会なので、正確に把握しづらいところだと思いますが、加須市ではいるのでしょうか。
高橋学校教育課長	正確に把握しておりません。
小野田教育長	市役所の窓口に外国籍の子が来て、所在が分かる子については、すべて把握しています。 教育委員会として、日本の学齢期にあたる場合は、所属学年をどこにするかとかを相談した上で対応しています。ただし、市内で行政手続きをしていない場合は把握できてないという話ですね。
角田市長	行政の方で把握している未就学の子は、この数字の中に入っていますか。
高橋学校教育課長	はい。
猪股委員	まずは、昨年度加須市で、外国人の生活情報セットや様々な支援ツールを予算かけてやっていただいたことは本当にありがとうございました。オンラインツールやパッケージになっていることによって、たくさんの外国人家庭が助かったという話を聞いています。 生活情報セットの中には、子育て支援のセットもあったと思いますが、就学支援セットはあるのでしょうか。 それから、特別支援コーディネーターがいるように、外国人の児童・生徒の支援について、特に学習支援については、コーディネーターがいて、トータルで市内の外国人児童生徒のケア、サポートをしているのか教えていただければと思います。
小野田教育長	まずは、市内を巡回するコーディネーター的存在はおりません

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
角田市長	が、基本的に日本語指導を担当する県費負担教職員にとって、それは一つの仕事ということで、個別支援をしながらも、各学校を訪問した時に、新たにそういう支援を求めている子がいないかどうか確認しています。不登校の支援、いじめ、学力向上のために教育センターがあるのですが、教育センターの適応指導の中に、外国人児童・生徒の学校適応も含めて支援をするということで、教育センターの中に、日本語指導助手を入れて、サポートに当たっています。生活支援については、2名のスクールソーシャルワーカーも国籍問わず対応しています。 就学支援セットが何を意味するかによりますが、当然のことながら、日本の児童・生徒と全く同じ就学支援も含めたものは、すべて同じように提供しています。 最近は全く日本語がわからないまま、家族で本市に来るケースもあるので、多くの場面で色々な関係課と連携をしながら進めていますが、スクールソーシャルワーカーが関わっている例もあると聞いています。 今日は、外国人児童・生徒の現状と支援ですけど、児童・生徒がいるということは、親、兄弟が一緒にいるということです。 外国人の受け入れをどうするかは、一自治体の課題ではなく日本の国としての課題です。最近の新聞でも、外国人のこどもが6万人になったと出ていましたが、日本として外国人をどう受け入れていくのかという課題の、氷山の一角が児童・生徒の問題です。加須市はよく取り組んでいると他市の方から言われます。対症療法になってしまっていますが、現状はこういうことなのかと思います。
松永委員	今、私は加須の児童館にかかわっていますが、昨年度と変わったことは、外国人の方が非常に増えたことです。特に夏休み中に多くいらっしゃいます。 要するに、居場所や遊び場が欲しいので、小さなお子さんを連れてきます。私もその方々と関わりながら「また来てくださいね」「ここはいつでも安心して来られるところですよ」と、日本語が通じないこともあります。伝えています。 日本語指導については、やはり必須だと思います。日本語ができるようになることは、日本で生活するために必要で、学習にも役立つと思うので、絶対必要なことですが、日本語ができないで来るこどもたちの立場で考えてみると、まず生活そのものが困難です。学校生活自体が困難です。こどもたちの関係というのは、一緒に遊んでいくうちに、すぐに仲良くなって、その中で言葉を覚えることもできますが、不安がいっぱいあると思うので、これと同時に、もう学校でやっていると思いますが、生活相談ができる、学校生活全体の支援ができる、心理的なサポートができるような部分がないと混乱してくると思います。 話題にもなりましたが、外国から来たこどもたちが多動だと捉えることがあります。実は、特別な支援が必要ということではなく、言葉ができないことによって、多動が起こることも多々あります。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
片山委員	そういう意味での心理的なサポートも必要です。 それから、学校にいと、担任が一番困るのは、親とのやりとりです。保護者に情報を伝え、保護者の協力を得る必要がある時に伝わらないというのが非常に大きな障害になります。そのことによって、こどもの教育に進展しないことが起こりますので、保護者との繋がりをうまくやっていくためのシステムが欲しいというのが、学校現場の大きな課題かなと思います。 こどもたちのことについては、普段一緒にいるので、サポートすることができますが、保護者に伝え、気をつけてもらう時には、なかなか細かなところが伝わっていきません。このあたりはとても大事です。また、放課後、学校内外での居場所づくりも一つの課題になっていると感じています。この資料と離れてしまいましたが、感じたことです。 2点あります。まず、先ほどの猪股委員のお話ですが、未就学のこどもの数は、結構いると思っています。私は加須市の民生委員をやっており、数箇月に一回、訪問をしています。外国人のお宅もだんだん増えていまして、行ってみると人数が増えていることもあります。人数が増えたという情報もなく、突合もできない方も多くなっています。私の担当する少ないエリアだけでもそのような状況なので、おそらく市全体で見たら、それなりの数がいいると思います。 それと、松永委員のお話ですが、保護者への伝達について、当時PTAをやっているときに、例えば、中国人の方だとししたら、ある程度日本語のできる中国人の方を介して、伝えてもらうルートを確認させていた経緯があります。そういったアナログ的ですけども、使えるのであれば、具体的なルートを確立しておくことも一つかなと思いました。 資料1番の増加する人数ですが、令和3年から令和6年まで倍増していますが、国の数で言うと、何カ国が何カ国に増えているのか、わかるようでしたら教えてください。また、指導する先生の方で、県費の先生と市費の先生というと思いますが、そのうち何カ国に対応できているのか、わかるようでしたら教えてください。
高橋学校教育課長	何カ国から何カ国に増えたかのデータは、今、手元にありませんが、児童・生徒で一番多いのはブラジルの子です。ブラジル、フィリピン、中国、ベトナムの順で、加須市の児童・生徒では多くなっています。他にも数名ですが、スリランカ、ミャンマー、パキスタン、ネパールの子もいます。
角田市長	それは、15歳までの児童・生徒の人数ですね。 大人も含めると、今3,600人ぐらいおりますが、圧倒的にベトナム人が多いです。
小野田教育長	今、1人1台タブレット端末を持っていて、翻訳機能があるため、ある程度担任はやりとりができています。以前は、ポケトークを学校に配ったりしていましたが、そもそもタブレット端末にそういう

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
高橋学校教育課長 秋山委員	機能があるためやりとりができています。 サバイバル日本語とありますが、これは正しい分類なのですか。 文部科学省がサバイバル日本語を分類として定めています。 2番の先ほども出たサバイバル日本語や日本語基礎、やはり学校での授業を進めていくためには、日本語がある程度理解できないと、1番と2番の生徒さんは、難しいと思います。 3番、4番、5番を見ると、令和5年度と令和6年度を比べると、技能別学習が1名から13名に増えていて、4番の統合学習も1名から7名に増えています。1番、2番も、29人から24人に減っているの、割合として18%減っています。これは、日本語指導助手の先生のご指導の成果がすごく出ていると思いました。 また、先ほどの映像見ていると、個別に指導して粘り強くやっていかないと本当に大変だと思いました。指導助手の先生を1名増やすだけで、マンパワーとして足りるのか不安です。去年までは2名で、1名増員ということですが、やはり足りてないという感覚があります。そのあたりの状況を教えていただければと思います。
高橋学校教育課長	日本語指導教員に関しましては、教職員の定数で54名以上が3名と決められております。
角田市長	加須市は全体で58名いるから3名ということですね。でも、1人は市費の指導助手ですよ。
小野田教育長	県費の指導教員が3人、市費の指導助手が1人で合計4人体制です。
遠藤教育長職務代理者	私が以前小学校にいた時に、中国人のお母さんがなかなかPTAにも馴染めない状況でした。そこで、当時の担任の先生が、その方を講師に餃子を作ることを考えてくれました。その国の文化を学ぶということは同じクラスの子にもよいですし、日本語がわからない生徒にとっては少し自慢できる気持ちにもなったりすると思います。それ以来、PTAでも仲良くなった記憶があります。 また、こどもが大学に通っていた時も、留学生がかなりおり、その時も各国の料理を作り家族を招いてコミュニケーションを取ることをやっていました。 勉強だけの指導だと、なかなか壁が破れない部分もあるのかなと思いますので、特に小学生は、それ以外で日本語を学べる機会があったら良いと思いました。加須市として、こどもたちや家族に対して、日本語の習熟度が上がり、理解ができるようになるための案がありましたら、教えていただきたいと思います。
角田市長	加須市では、外国人はウェルカムです。大人もこどもも全部ウェルカムです。多文化共生を進めています。今は、在住外国人のための生活環境の整備を推進しています。どのようにやっているかとい

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
猪股委員	うと、ごみ出しの説明リーフレットは5ヵ国語作成し、1階のカウンターに置いています。福祉や税務の窓口でも、翻訳機を置いたりしています。基本姿勢はウェルカムですが、個別にはいろいろな課題があります。 議題で紹介があったのは児童・生徒であり15歳までですが、レベル1、2、3に該当する18歳、19歳がたくさんいます。 その人を集めて、市民ボランティア団体である「にほんごの会」が日本語を教えています。このような取組は、他の市にはないため、横のネットワークで友達を連れて来ています。久喜からも来ていたりして、人数が増えたので部屋が狭くなっています。10年ぐらい前は、日本の教科書が欲しいとか、そういうレベルでしたが、今は場所がない、教える日本人がいないため、募集しながら、苦労しながらやっている状況です。 また、外国人の20歳の方には成人式の案内がありませんでしたが、市民の方が連れて来ました。20歳だからと、スーツを着て来場し、座っていいかと聞かれたので、いいですよと答えました。 ウェルカムなのだけど、細部まできめ細かな対応ができてないというのが現実だと思います。その一端が、小中学生の現状です。生活保護などは結構大変だと思います。全国の自治体では、受け入れないとしたところは非難されています。 在住外国人の問題は、これから大きくなる一方で、小さくはならないと思っています。 市長の発言に関連してですが、やはり学校現場や福祉の現場など、行政サイドがサポートするのは、行政コストもかかるので、なかなか限界もあると思います。 ですから、児童館などでこどもの居場所づくりをやっている市民グループや団体、民間のボランティアなどが、もう少し関われる仕組みがあるといいなとつくづく感じます。 そのためには、若い人たちがこの問題に興味を持ち、現役を退いた方たちばかりではなく、若い人もこういった支援の主役になれるように、日本語指導の人材育成の方で、日本語指導の学校を出ていなくてもいいので、先輩方に日本語支援のノウハウを教わったり、教員を目指す子たちがインターンで入るなど、そういう市民レベルの支え合いの仕組みへの支援を検討していただければと思います。
角田市長	他にございますか。 議題の（1）は、答えを出すというよりも、方向性が出たかなと思います。 議題の（2）は、ご意見をいただいて、気が付いた部分や明らかになった部分がお互いにあったと思います。 市長部局も教育委員会も、非常に中身の濃い、有意義な会議だったかなと思います。 本日の議事は以上となります。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
事務局（矢部政策調整課長）	4 その他 こども局より報告事項がございます。
関口こども保育課長	（報告事項「第一保育所・第四保育所の緊急対策について」説明）
角田市長	加須幼稚園も花崎北幼稚園も一部改修とありますが、どちらも基本的に2階に移転するということですか。
関口こども保育課長	まだ決まっていません。現場の職員等と相談し、これから詰めて参ります。
事務局（矢部政策調整課長）	報告事項は以上になります。
	5 閉会
会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。 令和6年 10 月 2 日 署名 <u>秋山哲也</u>	